

自慢の美味しいトマトをより多くの消費者へ！
大原トマト産地振興

事業実施主体名	大原トマト生産組合		住 所	倉吉市
プラン認定日	平成19年6月4日	プラン期間	平成19年～平成23年	

1 プラン内容

(1) 概要

「大原トマト」として定着しつつある自慢の美味しいトマトをより多くの消費者へ提供するために、栽培技術、労働力、コスト、流通及びPR対策を実施して、魅力のあるトマト栽培を实践することと併せて、次世代を担う後継者へ積極的にアピールして産地の振興を図る。

(2) 取り組みポイント

- 消費者の求める品質の「大原トマト」を、より新鮮でより多くの消費者の元に届け、市場・消費者のニーズに応える。
- 魅力のあるトマト栽培を实践し、後継者を育成し産地の維持拡大を行う。

(3) 事業の概要

年度	内 容	事業費 (千円)	補助金額(千円)	
			県	市町村
H19	トマト重量選果機・集計機一式	11,428	3,000	1,500
合 計		11,428	3,000	1,500

2 プラン実施状況

(1) 労働力、経営内容

	認 定 時	現 状
労働力(雇用)	8名	7.6名
経営内容・規模	経営面積 1.0ha (ハウストマト) 生産者数 7戸	経営面積 1.1ha (ハウストマト) 生産者数 7戸

(2) 成果

- ・新しい選果機を導入したことにより、選果時間も短縮され（5時間／日→4時間／日）、選果コストの削減につながった。
- ・短縮された時間、肥培管理の徹底など総合的な栽培管理技術が改善され、秀優品率が向上した。
- ・短縮された選果時間を活かし、鳥取・米子への販路拡大を図った。しかし、栽培品種（瑞健）の特質上、量販店での棚もちが悪かったため、評価が低く出荷を断念した。完熟販売をセールスポイントにしているが、流通と販売体制が噛み合わなかったことも要因のひとつと考えられる。
- ・新規就農者を2名加え、生産組合に活気がでた。面積も若干増加した。

主な取り組み内容		現状 H15	実績				
			1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
			H16	H17	H18	H19	H20
栽培面積(ha)	目標		1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
	実績	1	1.1 (92%)	1.1 (92%)	1.1 (92%)	(0%)	1.1 (92%)
生産者戸数(戸)	目標		8	8	8	8	8
	実績	7	7 (88%)	7 (88%)	7 (88%)	(0%)	7 (88%)

[中部総合事務所農林局]